

同時性・異時性の 重複がんを見落とさない がん診療における他臓器への目配り

最近のがん治療の長足の進歩に伴って「がんサバイバー」が急増しています。また高齢社会の到来も相俟って、ある「がん」を治療により克服しても、他臓器に異時性重複がんをきたすことも決して稀ではありません。「がん」の診断を得て治療を開始する際に、他臓器にも「がん」が存在する同時性重複がんも、臓器によっては高頻度にみられます。

一方、「がん」発生の原因もしくは要因として、①様々な化学物質による化学的因子、②紫外線や放射線などの物理的因子、③ウイルス、④食物・嗜好物・大気・風習などの環境因子、さらには⑤素因や遺伝などの内的因子、などが挙げられます。これらの要因は複数臓器における発がんのリスク因子となっていることも少なくありません。

本特集では上記のような背景に鑑み、総論として腫瘍学的見地、診断学的見地からの解説をいただき、さらに各論として、各臓器や腫瘍における同時性・異時性重複がんのデータに基づき、当該臓器がんの診断に留まらない術前検査のあり方や術後 follow up の方向性について、今後の展望を含めて論じていただきます。